

謝 辭

謝 辞

本学位請求論文の主査を務めてくださった長島啓記教授（早稲田大学大学院教育学研究科）、副査としてご指導くださった石堂常世教授（早稲田大学大学院教育学研究科）、杉本均教授（京都大学大学院教育学研究科）、黒田一雄教授（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科）に、心より感謝し御礼申し上げます。

筆者は、マラヤ大学に留学した1998年から現在まで、ほぼ毎年マレーシアに調査のために滞在してきました。その間、多くの方々から指導や助言していただくとともに、資料等を提供していただいたり、調査対象校を紹介・案内していただいたりしました。

まず、マレーシア経済企画庁からの調査許可証を取得するのに際して、マラヤ大学のジェンダープログラムコーディネイターであるシャンティ・タンビア助教授に、カウンターパートとしてご協力いただきました。申請に際してご協力くださったマレーシア経済企画庁の関係諸氏とともに、御礼申し上げます。

次に、ペラ州キンタ地区内の調査を許可してくださった教育局長、対象校を選定する際の指針を示してくださった、マレーシア理科大学のモリー・リー助教授（当時、現ユネスコ・バンコク）、対象校として筆者を受け入れてくださった3つの中等学校の校長先生はじめ関係者の方々には、マレーシアで実施が困難とされる学校調査が円滑に進むようお取り計らいいただきました。

さらに、本研究で示した実地調査の大半は、中等学校教員のモハンマド・ザイヌディン・オットー氏、オットー氏の娘で同じく教員のフジィ・ゼインハイダー氏に、コーディネイトしていただきました。それだけでなく、オットー氏の家族や親戚の方々に、筆者が安心して調査に従事できる安全な環境を整えていただいた上に、様々な形でお力添えいただきました。

最後になりましたが、学会、研究会およびゼミナール等で指導・助言してくださった方や、常に筆者の研究を支えてくれた家族のおかげで、本論文を完成させるに至りました。心から感謝致します。